第十講　古文常識「月の異名」「時刻」「方角」「建物」など（『方丈記』　安元の大火）

〈読解練習〉

予(われ)、ものの（注）心を知れりしより、四十(よそぢ)あまりの（注）春秋(しゅんじう)を送れるあひだに、世の不思議を見ること、ややたびたびになりぬ。

いにし（注）**安元(あんげん)三年**うづき二十八日かとよ。**風激しく吹きて、静かならざりし夜(よ)**、戌の時ばかり、都のたつみより**火出で来て**、いぬゐに至る。**果てには**（注）**朱雀門(すざくもん)、**（注）**大極殿(だいごくでん)、**（注）**大学寮(だいがくれう)、**（注）**民部省(みんぶしやう)などまで移りて、一夜のうちに**（注）**塵灰(ちんくわい)となりにき。**

（注）心…ここでは「道理」のこと。　春秋…年月。
安元三年…一一七七年。　朱雀門…大内裏南面中央の正門。
大極殿…大内裏の正殿。　大学寮…最高の教育機関。
民部省…戸籍・徴税などをつかさどった役所。　塵灰…灰。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「月の異名」

睦月（　　）
如月（　　）
弥生（　　）
「　　」

卯月（　　）
皐月（　　）
水無月（　　）
「　　」

文月（　　）
葉月（　　）
長月（　　）
「　　」

神無月（　　）
霜月（　　）
師走（　　）
「　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「時刻」

〈読み〉

子・丑・寅・卯・辰・巳

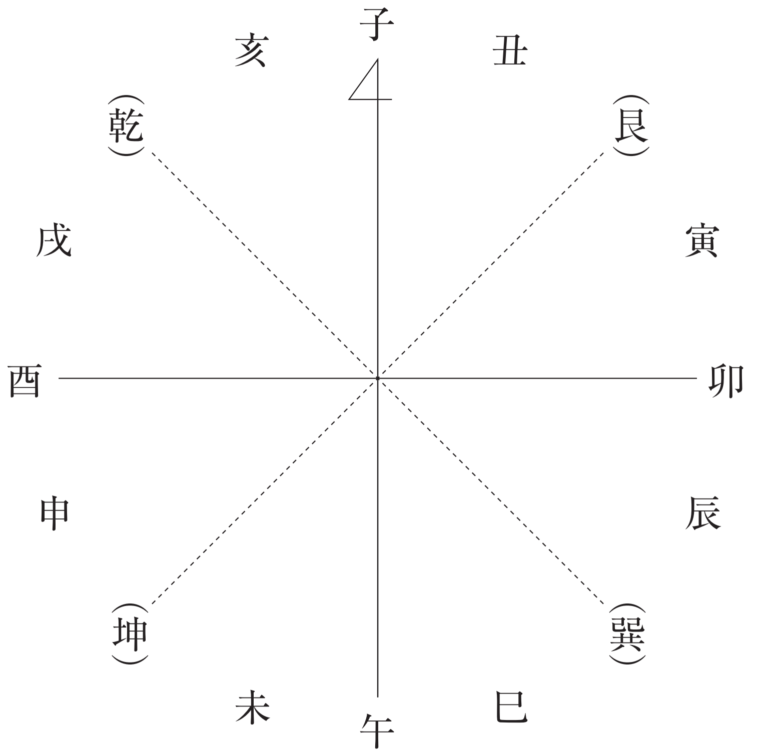
〈読み〉

午・未・申・酉・戌・亥

●数字が付いている場合⬇一つ〜四つ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「方角」



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「宮中」を表す単語

内裏（うち）（「だいり」とも）・**内**・**雲の上**・**九重**（ここのえ）・**禁中**（きんちゅう）・**禁裏**（きんり）

★「宮中」の御殿

●**清涼殿**（せいりょうでん）…天皇の日常生活の御殿。

●**紫宸殿**（ししんでん）（別名「南殿」）…内裏の正殿。即位などの公式行事を行う。
正面階段下の左右に桜と橘の木が植えられてある。

●**後宮**…天皇が住む正殿よりも北側にある天皇の妻たちの住まい。七殿五舎の総称。

・**「弘徽殿」**（こきでん）
・「飛香舎」（別名**「藤壺」**）
…清涼殿の北側にあり、中宮や有力な女御の住まい。

※「～舎」には、別名「～壺」があり、そこに住んでいる女性は「～壺」で文章中に出てくる。
「～舎」の名前を覚える必要はないが、「**～壺**（＝女性）」＝「**後宮に住んでいる天皇の妻**」とわかること。
（例「藤壺の女御」、「桐壺の更衣」）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★寝殿造り＝平安時代の貴族の邸宅の建築様式

●**寝殿**（別名**「南面（みなみおもて）」**・**「南殿（な(ん)でん）」**）…正殿。主人の居間や客間として使われた部屋。南向きに造られている。

●**対の屋（たいのや）**（略して「対」とも）…寝殿の北、東西にある建物。寝殿とは渡殿（次項参照）でつながっている。

・北の対…夫人（正妻）が住んだ。ここから、「夫人」のことを「北の方」という。

・東の対・西の対…子どもなどが住んだ。

●**渡殿（わたどの）**…建物と建物をつなぐ屋根のある板敷の廊下。渡り廊下。

●**釣殿（つりどの）**・泉殿（いづみどの）…東西の対の屋の廊の南端に、池にのぞんで建てられた建物。

●**壺（つぼ）**…中庭。

●中島（なかじま）…庭園の池の中に築いた島。橋が架けられている。

●**遣水（やりみづ）**…庭に水を導き入れてつくった細い流れ。

●**築地（ついぢ）**…土塀。邸の周囲をめぐらした。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「師走」の古語の読みを、現代仮名遣いで書け。

問二　「卯月」とは何月のことか、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　三月　　イ　四月　　ウ　五月　　エ　六月
オ　七月　　カ　八月　　キ　九月

問三　「神無月」は、何月のことか。漢数字で記せ。

問四　ａ「みなづき」、ｂ「ながつき」という異名は何月のものであるか、漢数字で答えよ。

ａ＝　　　　ｂ＝

問五　「神無月」よりも、一年のうちで後に来る月を次の中から一つ選べ。

ア　長月　　イ　睦月　　ウ　霜月　　エ　文月　　オ　水無月

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　「葉月」「霜月」がそれぞれ陰暦の何月を表すかを考え、両者の月数の合計を求め（例／五月＋七月＝計12）、その数値として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　計13　　イ　計15　　ウ　計17　　エ　計19

問七　次の傍線部（a）・（b）の各語句の読み（現代仮名遣い）の組み合わせとして最も適当なものを、後の中から選べ。

ⓐ戌の刻ばかりなり、この用は明日ⓑ巳の刻以前の事なり。

ア　（a）いぬ　　（b）う
イ　（a）さる　　（b）み
ウ　（a）い　　（b）み
エ　（a）さる　　（b）う
オ　（a）いぬ　　（b）み

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　「申の時」の、（1）「申」の読みをひらがなで記せ。また、（2）何時頃か。正しいものを、次の中から選べ。

（1）

（2）　ア　午前八時頃　　イ　午前十時頃　　ウ　正午頃
　　　エ　午後二時頃　　オ　午後四時頃

問九　「酉の刻」とはいつごろを指すのか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　午後二時ごろ　　イ　午後四時ごろ　　ウ　午後六時ごろ
エ　午後八時ごろ　　オ　午後十時ごろ

問十　「丑三つ」は、現在の何時ごろか。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　午前零時　　イ　午前一時　　ウ　午前二時
エ　午前三時　　オ　午前四時

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十一　「いぬゐ」を漢字で書くと最も適切なものはどれか。次の中から選べ。

ア　丑寅　イ　未申　ウ　申子　エ　戌亥　オ　辰巳

問十二　「坤の方に侍るとぞ聞こゆる。」の傍線部の読みを答え、訳も答えよ。

問十三　「築地」の漢字の読みを平仮名で記せ。現代仮名遣いでもよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　復習問題

①「卯月」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　一月　イ　二月　ウ　三月　エ　四月　オ　五月

②次の傍線部（a）～（c）の読みの組み合わせとして、最も適当なものを後の中から選べ。

ⓐ六月になりぬ。
ⓑ七月になりぬ。
ⓒ九月ばかり…

ア　（a）みなづき　（b）ふみづき　（c）ながつき
イ　（a）うづき　（b）ふみづき　（c）ながつき
ウ　（a）みなづき　（b）ふみづき　（c）かみなづき
エ　（a）うづき　（b）はづき　（c）かみなづき
オ　（a）みなづき　（b）はづき　（c）かみなづき
カ　（a）うづき　（b）はづき　（c）ながつき

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「申の刻」は、現在のどの時刻に相当するか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　午前四時　イ　午前六時　ウ　午前二時
エ　午後四時　オ　午後六時　カ　午後二時

④「巳の時」の時刻は、現在の何時にあたるか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　午前七時ごろ　イ　午前十時ごろ　ウ　午後一時ごろ
エ　午後八時ごろ　オ　午後十時ごろ

⑤「坤のかた」が表している方角を次の中から選べ。

ア　南西　イ　南東　ウ　西南西
エ　東南東　オ　南南西　カ　南南東

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　模範解答

問一　しわす
問二　イ
問三　十
問四　a 六　b 九
問五　ウ
問六　エ
問七　オ
問八　(1) さる　(2) オ
問九　ウ
問十　ウ
問十一　エ
問十二　(読み) ひつじさる　(訳) 南西
問十三　ついぢ (ついじ)

〈現代語訳〉

私が、物事の道理を理解するようになったときから、四十年以上の年月を過ごしてきた間に、世の不思議なことを見ることが、だんだんと増えてきた。

去る安元三年四月二十八日だったであろうか。風が激しく吹いて、静かではなかった夜、午後八時頃、都の南東から出火して、北西に火が広がった。最終的には朱雀門、大極殿、大学寮、民部省などまで火が移って、一晩のうちに灰となってしまった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十講　解答解説

〔解説〕

①「卯月」は「うづき」と読み、四月のこと。よって、正解はエ。

②「六月」は「みなづき」。「七月」は「ふ（み）づき」。「九月」は「ながつき」。よって、正解はア。

③「申」は「さる」と読み、干支の九番目。２（ｎ－１）の公式にあてはめると、16。よって、「午後四時」のエが正解。

④「巳」は「み」と読み、干支の六番目。③同様に計算すると、10。よって、「午前十時」のイが正解。

⑤「坤」は「ひつじさる」と読み、「南西」のこと。よって、正解はア。

〔解答〕

①エ　②ア　③エ　④イ　⑤ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。